

【特色ある学校づくり・環境教育】

体験型学習活動をもとにした特色ある学校づくり

守谷市立黒内小学校

1 はじめに

本校では学校教育目標である「豊かな心を持ち、自ら行動できる子の育成」を達成するために、一人一人の児童が輝くことができる活力ある学校づくりを重点課題として、様々な教育活動を推進している。その具体策として、体験型学習活動の積極的な導入を図っていくとともに、教科担任制の授業を進めている。

2 実践

(1) 体験型学習活動の充実

ア 体験型学習活動の中核を成す「黒内まつり」親子体験学習の実施

文化・芸術・自然科学等様々な分野の専門家を招聘し体験学習を行うことで、児童の興味・関心を広げるとともに、地域や家庭での教育力向上を図ることを目的として、毎年11月上旬に開催される「黒内まつり」において、親子体験学習を行っている。

この活動では、地域人材を活用することと併せ、平成23年度より県教育委員会指定の「理科教育推進事業モデル校」を受けたことを機に、自然科学分野での体験活動を拡充するとともに、外部の公的機関や研究機関、地域企業の協力を得ながら体験活動を実施している。本年度は児童数の増加も伴い、体験活動数としては最大の16ブースを設定した。

【平成26年度の体験学習活動の実績 ※ 太字は本年度新規体験活動】



守谷中美術部ワークショップ



凧づくり



フラワーアレンジメント



エアロビクス



竹トンボづくり



アルミ箔飛行物体



飯盒炊さん



缶ぽっくりづくり



竹水鉄砲づくり



紙飛行機づくり



勾玉づくり



科学実験教室



火打ち石づくり



冷熱実験 他



ソバ打ち体験



アウトドア体験

イ 教科での主な体験型学習活動

○ 2年

- ・生活科において、学年の畑で、ピーマンやナス等の夏野菜を育てた。また、一人一鉢でミニトマトを育てた。
- ・身近な生き物について、校庭や裏庭で生き物を探し虫取りをした。
- ・水道事務所へ探検に行き、水の大切さを学んだ。

○ 3年

- ・理科「自然を観察しよう」の単元において、学校のまわりの植物調べをした。

- ・社会「市の様子」の単元において、昔と今の市の様子を比べて、森林が減ってきていることや、道路の拡張、TXや高速道路が通ったこと、市街地の拡大を知り、自然がなくなることと便利になることは関係していることを考えた。

○ 4年

- ・理科の学習において、ツルレイシを栽培してグリーンカーテン作りに挑戦した。一人一鉢で育てた苗を、花壇に移植して名札をつけ、毎日観察をしながら世話をした。秋には2階に届くほどに生長した。
- ・山ゆりの会の人と共に、森林公園に看板を立て、山ゆりの保護活動を行った。

○ 5年

- ・米作りの体験学習を行った。田植えや稲刈り等、守谷の自然環境を生かした米作りが、どのように行われてきたかを体験するため、花壇を改良した田んぼを活用した。このことが貴重な体験となった。

ウ 学校全体としての取り組み

○ 委員会活動

- ・今年度、ボランティア委員会を設立し、募金活動やあいさつ運動を中心に活動した。緑の募金活動では、交付金でパンジーの苗を購入し、園芸委員会の児童が中心となって学校花壇に植える活動を行った。
- ・本校の敷地内には、桜や銀杏等の大きな木があり、秋にはボランティア委員会の児童を中心に、高学年の児童が自主的に加わり、朝の清掃活動に取り組んだ。

(2) 専科における教科担任制（理科・音楽）の導入

ア ねらい

- ・小学校高学年において、教科担任制による授業を実施することで、中学進学時の生活面や学習面での変化を少なくし、いわゆる中一ギャップ解消の一助とする。
- ・専門性を生かした授業を行うことにより、児童の興味・関心を喚起するとともに、学力向上の一方策とする。また、専科教諭を中心とした授業研究を行い、学校全体の教師の授業力の向上を図る。
- ・科学研究作品展や市音楽会等への児童の参加を活発にするとともに、質の向上を目指す。

イ 実践内容

【理科】

- ・昨年同様、観察・実験を中心に授業を展開してきた。
また、観察・実験に関しては、市販の教具や教材の活用をできるだけ少なくし、身の回りの素材から作り出すことで、生活との関わりをもった学習活動を目指した。さらに1人1実験が可能になるように教材・教具の充実に努めた。
- ・夏休み自由研究相談会の実施が4年目を迎え、児童と保護者を含め、のべ、80人以上の相談者が来校するようになった。
また、本年度は校内科学研究作品展に64点の作品が提出され、ここ数年の中では最大数となった。さらに、県南地区展において、「学校賞（小学校の部）」を、県科学研究作品展において「げんでん財団学校賞」を受賞することが出来た。

【音楽】

- ・体験活動を伴う学習活動の具体例
2月に実施した「和楽器に親しむ会」では、4、6年生児童がGTの演奏を聴いたり、琴や尺八の演奏体験を行ったりした。日本の文化芸能に触れることが出来た貴重な体験となった。
- ・守谷中学校区合同音楽授業
黒内小、大野小の6年生と守谷中1年生が合同で、オペレッタ「グイッ坊」の練習に取り組んだ。グループの練習では、中学生が手本を見せながら、小学生に分かりやすく指導を行い、楽しく交流しながら小中学生が作品を作り上げることが出来た。



校内科学研究作品展



4・6年和楽器に親しむ会

3 成果と今後の課題

本校では、日々の授業や朝自習の時間等を活用した反復学習の励行、授業研究の推進による分かりやすい授業の展開の工夫などにより、児童の基礎・基本の確実な定着を図るとともに、そこで得た知識を体験的な学習活動において活用することで、実感を伴う理解を深め、活用力を高めることが確かな学力に結びつくと考え教育活動を展開している。また、これにより子どもたちの学習内容に対する有用感や「もっと学びたい」とする学習意欲の喚起を図っている。今後も、学校の様々な学習活動を見直し、学習内容の定着と活用が両輪となって、子どもたちの学力向上を図れるよう、教育活動を計画・実践していきたいと考える。